「今」を生きる子どもたちと、
かつて子どもだった
大人たちを
つなぐ情報誌。

こども Channel
チャンネル

みる　きく
あそぶ　かんがえる

2017
60号

発行：認定NPO法人 福井県子どもNPOセンター　URL：http://childnpo.com

特集　子どものチ・カ・ラ 12

学びの天才「子ども」

10月6日（金）金森俊朗氏を講師にお迎えし、福井市児童クラブ指導員研修がありました。子どもNPOセンターが指導員の皆さんにぜひ聞いてほしいと提案した講演会でした。“子ども”を語る金森氏はどこまでも優しい方でした。

※子どもNPOセンターは福井市児童クラブ連絡協議会の事務局を委託されています。

今の子どもは昔に比べて凶悪で暴力的になり、反社会的行動をとるようになった。内閣府の世論調査によると、実感的にそう思う、と答えた大人は78.6%にも上るという。では、実際に、犯罪を起こす子どもの数は増加しているのか。1983年、刑法に触れる犯罪を犯した子どもの数は19万6千人。それに対し今は4万8千人。1/4に減っているのだ。つまり、私たちは不確かな情報により正しい判断を出来ずに子ども達を見ていることになる。

操作されたメディアの情報や一部の過剰な報道により、子どもたちへの眼差しを曇らせる、そんな社会が生まれてしまった。私たちは知らぬまに、子どもたちの才能や可能性を見抜く能力を失いつつあることにお気づきだろうか。

紙があったらクルクル丸めてボールにしたい。30秒あったら走り回って遊びたい。本来、子どもとはそういうもの。学力を重視し、評価を点数化する学校社会は、エネルギー満ち溢れる子ども達にとって、どのような場所に感じるのだろう。細かく時間に縛られ、急かされて、タスクをたくさん課せられる。犯罪を犯す子どもの数は減ったとしても、自らを闇の中に閉じ込めてしまう12万人以上の不登校・引きこもりの子どもたちがいる。私たちはこの現実を無視するわけにはいかない。

大きな夢を抱くこと、特殊な能力を持つ者、華々しい経歴のある者だけが称えられ認められる今の社会が、子ども達を苦しめているのではないか。金森氏は指摘する。誠実に、地道に、誰に褒められるでもないけれどコツコツと続けていく生活こそが「生きる」ことである。

特別でなくて良い。ひたむきに生きることの価値を、いま一度輝かせる時が来たと言える。「私には何の価値もない」「まわりからの期待に応えられない」と自分を責め苦しんでいる子ども達に、「生きるってそんなものだよ」と伝えよう。人は完璧ではない。何歳になっても出来ないことはある。大人が立派だなんて、そんなはずはない。分からないことだらけの毎日でも、こうして生きている。

夢を叶えること、目標を達成すること、一番になること。どれも素敵なことだろうけれど、最も大切なのは、喜びを分かち合う家族や友がいて、共に学びあい励ましあえる仲間がいることだ。お互いの努力を認め、成功を喜びあい、そしてそれを素直に表現できる子どもが増えてほしい。そのためには、心が震える体験が必要不可欠である。揺れるコスモスに秋を感じ、大きな虹の下ではしゃいでみたり、寒空に輝く金星を眺める。何気ない自然のなかに溶け込めば新発見の連続だって起きるだろう。心の中に秘めた思いを、ゆっくりじっくり書き出すのもいい。
楽しい出来事ばかりでなくていい。失敗も悔しいことも全部ひっくるめて学びに変えていく力が子ども達にはあるのだから、私たち大人は、いつだって真剣に寄り添っていくだけでいい。決して激励しすぎず、注文しすぎず、あくまでも共感的他者として、というポイントを常に念頭におきながら、学びの天才である子どもたちと、学ぶことの楽しさを分かちあい続けていこう。
（島田 妙子）

こどもChannel 2017 60号
2017年10月25日発行（年3回発行）　通巻第60号
Take Free【無料】

子どもNPOセンター Information Clip
インフォーメーション・クリップ

行政との協働

昨年度は第七次福井市総合計画や第3次福井市地域福祉活動計画の策定など行政の会議に、子育て・教育分野を考える立場で参加しました。どの会議でも地域活動の担い手がいないあるいは高齢化している、と嘆く声が聞かれたのですが、子どもの頃から大人と一緒に地域のことを考える場や、行政が子どもの声を聴く仕組みを学校と一体で作っていかないと人材は育たないということを訴えました。子どもNPOセンターは子どもと大人が共に育ちあう社会を目指して日々活動しています。（理事長　齋藤 万世）

上映会

不登校も特別支援学級もない　同じ教室で一緒に学ぶ
ふつうの公立小学校のみんなが笑顔になる挑戦

©関西テレビ放送

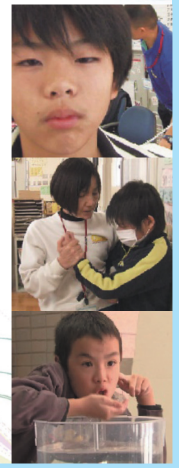
みんなの学校

監督：真鍋俊永　配給：東風　文部科学省特別選定

障害のある子ども、気持をコントロールできない子どもも全ての子どもに居場所がある学校作りを目指す、大阪市立南住吉大空小学校の取組を長期にわたり丁寧に追い続けたドキュメント。日々生まれ変わるように育っていく子どもたちの奇跡の瞬間、ともに歩む教職員や保護者の苦悩、戸惑い、喜びをありのままに映していきます。

■日時／2017年12月6日（水）18:30〜　■上映時間／106分
■会場／ユーアイふくい 映像ホール　■料金／500円（一般）
■申込先／認定NPO法人 福井県子どもNPOセンター

主催／福井市児童クラブ連絡協議会　共催／認定NPO法人 福井県子どもNPOセンター



認定NPO法人 福井県子どもNPOセンターにご支援ください。

子どもNPOセンターは、国際条約でもある「子どもの権利条約」に沿って子どもの最善の利益を考えて日々の活動をつないでいます。

A. 賛助会員 子どもNPOセンターの目的に賛同し、活動を支援する会員。	●個人 ●団体（法人）	一口年額／ 5,000円 一口年額／10,000円
B. ボランタリー会員 子どもNPOセンターの目的に賛同し、活動にボランティアとして協力・参加する個人。	●個人	一口年額／ 1,000円
C.一般寄付も受け付けています。		

入会方法

郵便振替の通信欄に、
❶住所 ❷氏名 ❸電話番号
❹会員の種類（左記ABCいづれか）
❺口数 を記入してお振込みください。

郵便振替
00770-1-45546
福井県子どもNPOセンター

◎税制上の優遇措置について

「認定特定非営利活動法人」へのご寄附や、正会員以外の年会費等は、下記のような税制上の優遇措置（寄附金控除）が受けられます。ぜひご利用ください。

❶個人のご寄附

【所得税】（寄附金の合計額 −2,000円）×40%が税額控除されます。[上限：所得税額の25%]
【住民税】自治体によって異なります。お住まいの自治体にお問い合わせください。
【相続税】相続または遺贈により財産を取得した方が、取得した財産を相続税の申告期限内に寄附した場合、寄附をした財産には相続税が課税されません。

❷法人のご寄附〈法人税〉

認定特定非営利活動法人への寄附金の特別損金算入限度額が改正されました。(2012/4/1)
{（資本金×（当期の月数÷12）×0.375%）＋（所得の金額×6.25%）}

※詳細については、最寄りの税務署にお問い合わせ下さい。また、国税庁のウェブサイト（国税庁＞申告・納税手続＞認定NPO法人制度）でも手続きの詳細が掲載されています。

団体正会員

鯖江子ども劇場	〒916-0024 鯖江市長泉寺町1-9-20 鯖江市民活動交流センター内
小浜子ども劇場	〒917-0231 小浜市国分50-9 TEL.0770-56-2867
勝山子ども劇場	〒911-0811 勝山市片瀬町1-402 勝山市民活動センター内 TEL.0779-87-1011　FAX.0779-87-1022
NPO法人 福井芸術・文化フォーラム	〒910-0019 福井市春山2-7-1（福井市文化会館内） TEL.0776-23-6905　FAX.0776-23-7905

福井県子どもNPOセンターを支援しています。

- ●有限会社アドヴァンス近信
- ●池田歯科医院
- ●大月産婦人科クリニック
- ●春日装備株式会社
- ●上屋敷工業株式会社
- ●学校法人 福井仁愛学園
- ●スクエアパーク
- ●造家屋
- ●つちだ小児科
- ●ネッツトヨタ福井株式会社
- ●光タクシー有限会社
- ●福井県映画センター
- ●まきレディースクリニック
- ●三井皮膚科医院
- ●やしろ歯科クリニック
- ●山内整形外科
- ●六感デザイン

Salt & Pepper ソルト&ペッパー

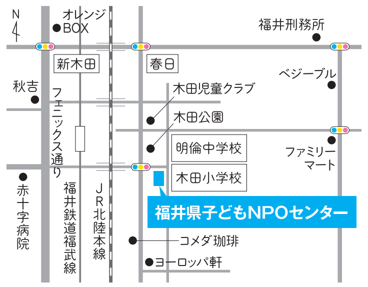
息子が黒い服を着て「頭に黒布を巻いて。」と言うので巻いてあげた。プラスチックの刀を背に付けて…忍者になった。外が薄暗くなると出て行き「コンビニに行ったら見つかった。ササッと隠れたんだけど。」と言って帰って来た。そりゃそうだろ〜そんな変な格好して、変な動きをしていれば（笑）中1の春の日の話。ちょっと変わり者だが、普通に育ってる？(maya)

HPをリニューアルしました。かわいいから見てね。

記事、情報に関するお問い合わせは福井県子どもNPOセンターまで

認定NPO法人
福井県子どもNPOセンター
〒918-8106 福井市木田町36-1コーポ木田201号
TEL.0776-97-8460　FAX.0776-97-8461
E-mail childnpo@muse.ocn.ne.jp
URL http://childnpo.com　始めました

企画・編集／福井県子どもNPOセンター　デザイン／六感デザイン



こどもChannel

子どもゆめ基金
助成活動

予告

あべこべ学校

朝のきんちょうがうそみたいに楽しかった！
大人生徒大募集中!!

第1回ワークショップ

子どもが先生?! 大人が生徒?!
子どもに学ぼう！ 大人生徒募集中！

「あべこべ学校」は子どもが先生、大人が生徒とお互いの立場を入れ替える、逆発想でユニークな活動です。子どもたちは先生になることで話を伝える難しさに気づき、自分の言葉を大人が聞くという心地よさも体験します。そして生徒となった大人は子どもの豊かな発想に感心することでしょう。2回目となる今年度の「あべこべ学校」、子ども先生には県内各小学校から25名が参加します。1年生から6年生がグループになり3日間のワークショップで授業を組み立てます。11月12日、どんな授業になるか楽しみです。ぜひ「あべこべ学校」の大人生徒として授業を受けてみませんか。

子ども先生ワークショップ

日程	時間	プログラム	会場
10/15（日）	9:00～13:00	第1回ワークショップ「先生ってなんだ?」	福井市社会福祉協議会 ボランティアルーム
10/22（日）	9:00～15:00	第2回ワークショップ「生徒に何を教える?」	福井県 社会福祉センター4F
11/11（土）	9:00～15:00	第3回ワークショップ「生徒にどう教える?」	

■授業料：1,000円（給食費込）　■対象：子どもと一緒に笑える大人　■定員：30名

授　業

日程	時間	プログラム	会場
11/12（日）	9:00～15:00	大人にむけて授業をします	福井県 社会福祉センター4F

予告

大人が学びあう講座

困難を抱えた子どもへの理解と支援

2015年からスタートした大人が学びあう講座が3年目を迎えます。「子どもの貧困」～「虐待」という講義の流れで、これらが密接につながっていることを実感しました。ここ最近子ども食堂や無料塾など貧困家庭の支援に立ち上がる市民団体が増え、行政もそういう活動をサポートする体制ができつつあります。貧困自体ももちろん大きな問題ですが、社会から孤立して困窮状態に気づいてもらえない、そして居場所がないことがさらに問題を深刻化します。サポートが必要な人が自ら声をあげられる環境になり、子どもたちが安心して頼れる場所が少しずつでも増えているのはとても嬉しいことです。その一方で、虐待については法律や行政上の運用手続きは少しずつ整備されてきているものの一般市民のマインドに大きな変化は見られません。元々貧困よりもさらにプライベートでナーバスな問題であり顕在化しにくいということがあります。昨年度の虐待の講座に日頃子どもの育ちに関わっておられる方々がたくさん参加され、虐待が疑われる事例の対応に苦慮しているという声が複数ありました。その中には発達障害が関係していると疑われるケースもあり、今年は虐待と発達障害両方の専門家をお招きし併せて考えていきたいと思います。

■講演会

日時	講師	会場
11月18日（土） 13時半～16時	芝 康弘氏 （福井県総合福祉相談所 こども・女性支援課 課長）	福井市社会福祉協議会 ボランティアルーム （フェニックスプラザ4F）
平成30年 1月20日（土） 14時～16時	森本 武志氏 （子どものこころの発達研究センター 児童青年期こころの専門医育成部門 准教授）	
平成30年 2月17日（土） 10時～12時	小坂 浩隆氏 （子どものこころの発達研究センター 教授）	福井県立大学 多目的ホール

■上映会「みんなの学校」 詳細は裏面に

うめだ演劇工房
演劇キッズ2017

子どもゆめ基金助成活動

予告

■日程：12月23日（土・祝） 開演17時
■会場：響のホール（福井市中央1丁目4-13）
■応援チケット：1人500円

みんな観にきてね！

自由に楽しく表現してます！

今年もスタートしました演劇キッズ2017。6月17日の開講式では、県内のいろいろな学校から集まった子どもたちと出会い、表現あそび等を通してコミュニケーション力を高めました。8月には、台本がみんなの手に渡り、今はそれぞれの役と向き合って役作りに奮闘中です。そんな中、今回はインプロ（即興）にも挑戦し、本番は2部構成で即興劇も発表する予定です。初の試みで、どうなる事か今からドキドキしていますが、とても自由に楽しく表現しているキッズを見ていると、本番何かすごい事が起こるのではないかと楽しみでなりません。（アシスタント講師　鴛田 静佳）

子どもフェスティバル

子どもゆめ基金助成活動

ふくいうららんキッズ2017

報告

領収書もちゃんと自分で書けたよ！

今回の子どもフェスティバルは、まちフェス2017「まちなかDAY CAMP」の中で開催しました。「ボクたちのお店」も5回目を迎え、小学生の「ボクたち」はもう中学生に。そこで子どもスタッフを募集したところ3人の中学生が応募してくれました。受付や誘導などみんなの先輩として仕事をしました。また北陸銀行の皆さんがチャイルドラインフリーダイヤル支援の募金を呼びかけました。賑わうまちの中で子どもNPOセンターの活動を知ってもらえる機会となりました。

■とき：10月1日（日）10時～16時
■会場：西武前電車通り
■共催：まちづくり福井株式会社　■協力：北陸銀行
■内容：子どもフリーマーケット「ボクたちのお店」31店舗84人
　　　中高生「パフォーマンスらいぶ」4人
　　　大道芸「ムーラのマジックサーカス」観客280人

子どもと文化企画事業

観るチカラ

報告

■と　き：7月27日（木）　■ところ：福井市文化会館
■主　催：福井市児童クラブ連絡協議会

児童クラブふれあい事業に、人形劇団プークの「怪じゅうが町にやってきた」を紹介しました。子どもたちは舞台いっぱいに動き回る怪獣や人形に引き込まれ、お話の世界に魅入っていました。子どもには想像し観るチカラがあるのだなあとあらためて実感しました。福井県子どもNPOセンターはこれからも子どもの心を育てる上質な作品を紹介していきます。

ふくい チャイルドライン

「チャイルドライン」は18歳以下の子どもの気持ちを聴く活動です。子どもたちは、行きどころのない思いやさびしさ、深刻な悩みで話をしてきます。わたしたちはどんな話、気持ちでもまずは受けとめることからはじめます。そして子どもをひとりの人間として尊重し、話を聴いていくなかで、できることを一緒に考えていきます。子どもは話をすることで気持ちを整理していき、自分への理解者がいると感じて解決のための次の1歩を踏み出すことができるのです。（2017チャイルドライン年次報告引用）

フリーダイヤルで午後4時～9時の時間帯で月曜日から土曜日まで子どもの声を受けているチャイルドライン。県内では福井会場は毎週月曜日、奥越会場は隔週の木曜に開設しています。子どもの話を聞くのは一般のボランティア。受け手ボランティア養成研修を経て受け手になります。チャイルドラインは子どもたちと「話す」ことの楽しさ・大切さを共有できる時間なのです。（チャイルドライン室長　谷内 由美子）

18才までの子ども専用電話
月曜日～土曜日 16:00～21:00
☎0120-99-7777

18さいまでの子どもがかける電話
チャイルドライン
0120-99-7777
チャイルドラインのやくそく

問い合わせ・申込は福井県子どもNPOセンターまで